

群 教 セ	G06 - 03
	令 6. 287 集
	保体 - 中

主体的に自ら課題解決を目指す生徒の育成

—課題チェックシートの活用と合理的な課題解決の活動を通して—

特別研修員 小林 武瑠

I 研究テーマ設定の理由

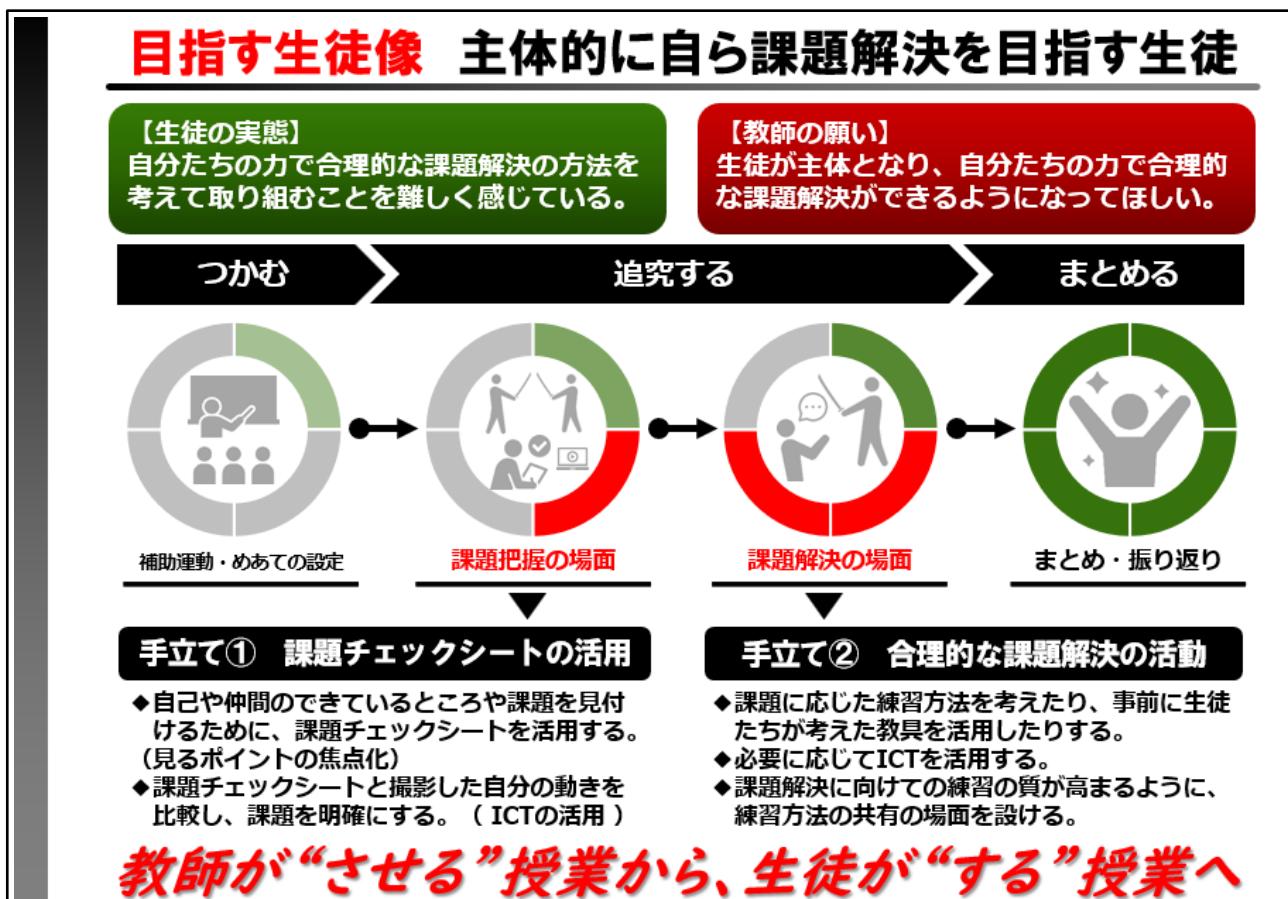
令和6年度学校教育の指針では、教師が「～させる」授業から、児童生徒が「～する」授業への転換が求められている。また、体育・保健体育で特に現れてほしい子供の姿の一つとして「仲間と積極的に関わったり、自他の気付きや意見を生かしたりして課題を解決している」とあり、教師が課題解決をさせるのではなく、仲間と協力し合いながら、自分たちの力で課題解決を図ることが大切だと考える。

研究協力校では、体育の授業に意欲的に参加し、仲間と協力して取り組むことができる生徒が多い。しかし、技能を向上するために必要な課題意識をもって取り組めていなかつたり、課題解決の方法が分からず、自分たちの力で合理的な課題解決の方法を考えて取り組むことを難しく感じたりしているため、教師の言葉掛けに頼ってしまう生徒が一定数いる。

そこで、自己の課題を把握するために課題チェックシートを活用したり、教師が教えるだけでなく、仲間と協力し合いながら、自分たちの力で合理的な課題解決を図ったりする活動を通して、主体的に自ら課題解決を目指す生徒を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

生徒たちが主体となり、自ら課題解決を目指すために、次の二つを研究上の手立てとした。

手立て1 課題チェックシートの活用（課題把握の場面）

課題チェックシートとは、自己や仲間のできているところや課題を見付けさせるために、動きのポイントができているかをチェックするワークシートのことである。

手立て2 合理的な課題解決の活動（課題解決の場面）

合理的な課題解決とは、課題に応じた練習方法（効果的・効率的）を考え、課題解決を図ることである。

手立て1は、課題把握の場面において、課題チェックシートを活用し、見るポイントを焦点化することで、自己や仲間の課題を見付けさせることをねらいとしている。具体的には、班の仲間にチェックしてもらい、どこができるか、どこができるかを伝え合うことを促す。また、自分の動きを動画で撮影し、課題チェックシートと撮影した自分の動きを比較しながら、自分の課題を見付け、ワークシートに記入するように促す。

手立て2は、課題解決の場面において、班の仲間たちと協力し合い、自己や仲間の課題に応じた練習方法（効果的・効率的）を考えたり、事前に生徒たちが考えた教具を活用したりする活動を通して、合理的な課題解決を図っていくことをねらいとしている。また、必要に応じてICTを活用したり、課題解決に向けての練習の質が高まるように、練習方法の共有の場面を設けたりする。

手立て1・2の活動を通して、教師が「～させる」授業から、生徒が「～する」授業への転換を図り、自分たちの力で課題を見付け、課題を解決していく力を身に付けさせていきたい。

III 実践例

1 単元名 「武道（剣道）」（第3学年・2学期）

2 本単元について

剣道は、剣道具を着用し竹刀を使って、基本動作や基本となる技を用いて、「有効打突」を目指して、相手を攻撃したり相手の技を防御したりする攻防を展開することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、剣道を通して、礼儀作法や相手を尊重する考え方など、人間形成に関わる考え方を習得することができる単元でもある。

本単元では、剣道の基本技を安全かつ分かりやすく習得するために、「木刀による剣道基本技稽古法」を教材に取り入れた。また、「木刀による剣道基本技稽古法」を用いて、剣道の伝統的な考え方を学び、剣道の基本技を大きな動作で正確に打突することを学習のねらいとしている。

したがって、「木刀による剣道基本技稽古法」における自己や仲間の課題を発見し、技の出来映えを他者に伝えたり、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫したりする活動を通して、技能の向上や習得を図り、互いに高め合う楽しさや喜びを味わわせたいと考えた。

以上のような考え方から、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<ul style="list-style-type: none">・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開できるようにする。（知識及び技能）・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようとする。（思考力、判断力、表現力等）・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようすること、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることなど、健康・安全を確保することができるようとする。（学びに向かう力、人間性等）
評価規準	(1)知識・技能 ①剣道の伝統的な考え方、技の名称や行き方、「木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）」の形のポイントを理解している。 ②剣道の基本動作や基本となる技を用いて、「木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）」の形を大きな動作で正確に打つことができる。 (2)思考・判断・表現

	①自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫したり、自己や仲間の考えを他者に伝えたりしている。 (3)主体的に学習に取り組む態度 ①自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ②自己の責任を果たし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ 追究 する	第1時	・学習のきまり、授業の流れ、補助運動について知り、単元の見通しをもつ。
	第2時	・木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本2）について振り返り、練習を行う。
	第3時	・木刀による剣道基本技稽古法（基本3）について知り、練習を行う。
	第4時	・自己や仲間の課題を見付け、仲間と協力して課題解決の練習方法を考え、課題を改善する。
まと める	第5時	・木刀による剣道基本技稽古法（基本1～基本3）の形を大きな動作で正確に打てるようとする。
	第6時	・団体戦の行い方を知り、団体戦に向けてチームごとに練習を行う。
	第7時	・団体戦を実施し、単元を振り返る。

3 授業の実際

本時は全7時間計画の第4時に当たる。本時では、課題チェックシートを用いて自己や仲間の課題を見付け、仲間と協力して課題解決の練習方法を工夫したり、アドバイスしたりする活動を通して、課題を改善できるようにすることをねらいとした。

【事前】

事前の準備として、課題解決のために必要な教具は何かあるかと生徒たちに聞いたところ、テープと正中線シート（図1）を使いたいという声が上がった。テープの使用方法は、木刀の物打ちの位置が分かりにくいため、目印として使いたいとの意見が出た。正中線シートは、姿勢を確認するために使いたいとの意見が出た。正中線シートとは、赤い直線をラミネートした自作の教具であり、2年次の授業では、打突する際に真っ直ぐ振られているかを確認するのに使用したことがある。

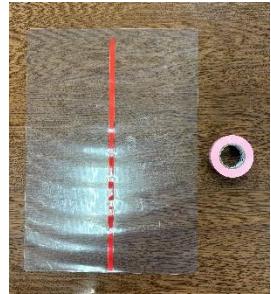


図1 生徒考案の教具

【本時】

(1) 手立て1 課題チェックシートの活用（課題把握の場面）

課題把握の場面では、課題チェックシート（図2）を活用し、見るポイントを焦点化したことによって、動きのどこを見ればよいかが明確となり、具体的に課題を伝え合う様子が見られた（図3）。また、自分の動きを撮影してもらい、課題チェックシートで伝えられたことと撮影した自分の動きを比較しながら、ワークシートに自分の課題を記入するように促したことにより、自分の課題を明確にすることができた（図4）。

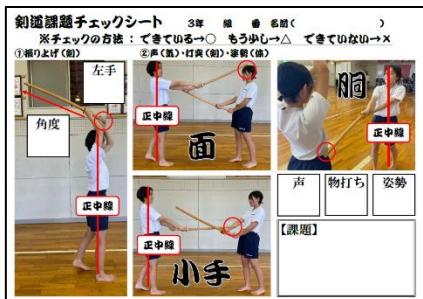


図2 課題チェックシート



図3 課題を伝え合う活動



図4 動画視聴・課題の記入

(2) 手立て2 合理的な課題解決の活動（課題解決の場面）

課題解決の場面では、班の仲間たちと協力し合い、自己や仲間の課題に応じた練習方法（効果的・効率的）を考えたり、事前に生徒たちが考えた教具を活用したりして課題解決を図った。合理的な課題解決の活動の様子は以下のとおりである。

① 生徒たちが考えた練習方法及び生徒の変容

次ページ図5の練習は、振り上げたときに木刀の角度が下がらないように木刀で支えもらったり、鏡を見ながら確認したりしている様子である。この練習を通して、振り上げの角度を改善する

ことができた（図6）。図7の練習は、木刀の物打ちの位置にテープで目印を貼っている様子と正中線シートを活用し、姿勢が真っ直ぐになっているかを確認している様子である。この練習を通して、打突の位置や姿勢を改善することができた（図8）。すべての班において、班の仲間たちと協力し合い、主体的に自ら課題解決を目指す姿が見られた。



図5 木刀と鏡を使った練習



図6 生徒の変容（振り上げの角度）



図7 テープの活用と正中線シートを使った練習



図8 生徒の変容（小手の打突の位置・姿勢）

② 練習方法の共有

全体で共有した練習方法（図9）は、大きな声で発声ができるように隣の人に負けない声を出すという練習である。一人で声を出すのは恥ずかしさがあるが、皆で発声することで声が出しやすくなるとのことであった。この練習方法は教師が予想していなかったものであり、生徒たちから新たな練習方法を学ぶことができた。また、共有後の練習では、共有した練習方法をヒントに新たな練習方法を考えていた班もあり、練習の質を高めることができた。



図9 練習方法の共有

③ 考察

生徒の感想の中に「自分の課題が明確に分かったので、その後にどんな練習をすればよいかなど課題改善に向けた取組がやりやすくなった。」という記述があり、課題チェックシートの活用は、自分の課題を明確にするとともに次の活動の見通しをもたせることにも有効であったと考えられる。また、「限られた時間で効果的な活動ができるか自分たちで考えることにより、ただ体を動かすだけでなく、頭を使って体を動かすことができた。」という記述があり、合理的な課題解決の活動を通して、生徒たちが自ら考え、判断し、行動する楽しさや喜びを味わうことができたと考える。以上のことから、本研究の手立ては、主体的に自ら課題解決を目指す生徒の育成につながったと考えられる。

IV 研究のまとめ

1 成果

課題チェックシートは、生徒の感想や変容から自己や仲間の課題を見付けたり、合理的な課題解決の見通しをもたせたりするためのツールとして有効であったと考えられる。また、合理的な課題解決を図る中で、主体的に自ら課題解決を目指す姿や教師が予想していなかった練習方法を考案した班などが見られ、教師が教えるだけでなく、生徒自らが考え、判断し、行動する機会を与えることの大切さを感じることができた。

2 課題

本研究は、自分たちの力で個々の課題を見付け、課題を解決していくための手立てとして活用したが、体育の授業では、集団やチームで行う種目もある。今後は、本研究の授業の流れをベースとし、他種目においても効果的に活用できるかを検証していく必要がある。